**地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。** 創世記 1:2

聖霊について学びます。聖霊について確認したいのは、聖霊の①一般恩恵と②特別恩恵です。つまり、①万人に働く聖霊の恵み（一般恩恵）と、②キリスト者にだけ特別に働く聖霊の恵み（特別恩恵）です。ここではまず①を学びます。

聖霊は「父、子、聖霊」三位一体の神のひとりです。人格があるので、喜んだり悲しんだり嘆いたりもなさいます。

聖霊は、新約の時代に突如として出現したわけではありません。父なる神、イエスさまと共に、天地が造られる前からおられました。そして、父なる神、イエスさまと共に働いて、天地を創造なさいます。その際、父なる神が「光、あれ」と言うと光ができます。つまり、父なる神の計画は、ことばによって啓示され、そのことばの通りに造られました。使徒ヨハネはこの神のことばはイエスさまだと解説します（ヨハネ 1 章 1~3 節）。そして、啓示された神のことばの通りに一つ一つ造ったのが聖霊です。水浸しで混沌とした地のすべてを一手に動かしたのは「神の霊」つまり聖霊でした（創世記 1 章 2 節）。こうして、父なる神の計画は、神のことば（イエスさま）によって啓示され、聖霊によって実行されたのです。

創世記 1 章によると、天地創造で、聖霊は「光」と「いのち」と「秩序」の三つをもたらします。聖霊は、①闇に「光」をもたらし、②死んだ世に「いのち」を生み出して、③混沌とした世界に神のことば通りの「秩序」を形成します。世界は、永遠に輝く光といのちと秩序あるものとして、聖霊によってすばらしく造られたのでした。

世界をすばらしく造られた聖霊の働きは、万人に関わります。キリスト者だけに関わるのではありません。神を信じようが信じまいが、聖霊は万人と関わっています。神が造られた全人類の中で、神は生きて働いておられます。この世は神の栄光の舞台なのです。この神の劇場で、人は神のすばらしいみわざを見ている観客です。でも、人は神に背き、その神の栄光が見えなくなってしまいます。それで、神のことばである聖書を通してのみ、それを正しく知ることができます。

それでは、実際に聖霊は全人類とどう関わっているのでしょうか。キリスト者だけでなく、キリスト者ではない人に対しても、聖霊はどのように働いているのでしょうか。その働きは次の三つに要約できます。①堕落の抑止、②善の奨励、③文化的な成果の三つです。これを「聖霊の『一般恩恵（Common　Grace）』」と呼びます。一つ一つ見ていきましょう。

①まず、聖霊は人の堕落を抑止します。使徒パウロは、神に背く「不法者」の不法が全面的に世を支配することがないよう、聖霊が「不法者を引き止めている」と言います（Ⅱテサロニケ 2 章 6~7 節）。人はやることなすこと考えることの一切が神に背いて堕落しているので、そのままでは本人も社会も滅びてしまいます。それで、そうならないよう聖霊が堕落を食い止めます。つまり、人の悪が全面的に現れて世界が滅びることがないよう、聖霊は堕落を抑止するのです。

例えば、人には「良心」というものがあります。これは聖書の神を信じない人にもあります。その良心が悪いことをしないよう教えます。悪いことをしたら、咎めを感じるよう働きます。こうした「良心」が、人の堕落を抑止するのです。

あるいは、犯罪を犯せば人々に非難され、信頼を失い、蔑まれたくないという自尊心やプライド、虚栄心なども、堕落を抑止します。犯罪を犯すと社会的に破綻するとか経済的に不利益を被るという損得勘定も、堕落を抑止します。こうしたことは、神を信じる信仰とは関係なく、ただの打算に過ぎないのですが、それも用いて聖霊は人の堕落を抑止しています。また、聖書の神を信じない異教の宗教であっても倫理や道徳を教える場合があり、これも堕落を抑止します。

また、人の犯罪を取り締まる国家という制度、行政や司法も、堕落を抑止する聖霊の一般恩恵です。政治は神の恵みなのですから、キリスト者はこれを正しく理解し、関心を持って、神の恵みのわざに正しく関わる責任があるでしょう。

②聖霊の一般恩恵の二番目は、「人の善を奨励する」ことです。神を信じない異教徒であっても、彼らが良いことをするよう聖霊が働きかけます。例えば、ペルシャの王キュロスは異教徒でしたが、70 年間バビロンの捕囚であったイスラエルを解放するという良いことをしました。それで、神はキュロスを「わたしの牧者」「油注がれた者」と呼びました（イザヤ書 44 章 28 節、45 章 1 節）。また、異教徒であっても、子どもを愛してしっかり育てようとする親の愛情、母性本能、父性本能を持っています。それなりに家族を思いやる心や、友人を大切にする友情もあるでしょう。戦争に反対する正義心、真理を探究する求道心もあります。散々悪を働いた人が、晩年は社会福祉の働きをすることもあります。たとえ汚名返上のためでも、それで助かる人がいるのですから、彼らにとってはこれも人に善を行うよう働きかける聖霊の恵みです。

③聖霊の一般恩恵の三つ目は、文化的成果をもたらすことです。カインの末裔は文明社会の祖になりました（創世記 4 章 19~22 節）。それにより、生活は繁栄し、芸術を楽しみ、便利になり、権力を手にします。文明は人の生活を楽しく便利で豊かにしてくれました。学問が発展することで、人の思想が深まり、治らなかった病気が治り、物事の仕組みが解明されて様々な文明の利器が生まれます。印刷機のおかげで聖書が大量に印刷できます。パソコンで毎週週報を印刷できます。自動車で教会に来ることができます。携帯やネットで互いに連絡できます。電灯によって、夜も安全に生活できます。音楽で楽しく生活できます。すばらしい芸術で、神の栄光あるみわざと天国を垣間見て感動します。これらはどれも神の恵みです。それも、すべての人に与えられている神の一般恩恵です。その意味では、日頃私たちが普通に見ている、目の前にあるものは、どれもこれも神の恵みということになります。つまり、私たちは神の恵みの中で生かされているのです。

でも、一方で、トバルカインの「鍛冶屋」がそうだったように、文明最先端の技術は戦争兵器の開発に直結し、学問や芸術もそれに利用されるので、注意も必要です。もともと「文化的な成果」それ自体は善でも悪でもありません。利用する人間が堕落しているので当然悪用もされるのですが、でも、たとえそうであったとしても、そのおかげで私たちがより豊かに神と人に仕えることができるようになるなら、それは神の恵みです。神が万人に与えている聖霊の一般恩恵です。

聖霊の一般恩恵について確認してきました。一見神と関係なく見えても、あくまで真理は神のもので、たとえ異教であっても学ぶことがあるのですから、神と関係ないものはこの世に何一つないと、私たちの世界観は一気に拡がります。

でも、最後に確認したいのは、残念ながらそれだけでは救われないという事実です。つまり、どんなに善を行い、学問を修め、快適で便利に楽しく生活できても、「聖霊の一般恩恵」では人は救われないのです。人が罪と滅びから救われるには、「聖霊の『特別な恩恵』」が必要です。特別な聖霊の恵みによって、新しく生まれ変わることが必要なのです。